

# 小学生の宿題をサポート！



児童の宿題を見る高校生巻＝高山市下岡本町で

## 高校生が先生 楽しく勉強

### 高山で「寺子屋」小学生が宿題

地域の大人に見守られながら、小学生が夏休みの宿題をする「寺子屋北まち」が七月二十八日までの四日間、高山市下岡本町の富士会館などであり、今年は飛騨高山高校の生徒が先生として参加した。

「十から、この分引くとどうなる？」。高校生が、

両手を広げて一本ずつ指を折る。引き算の勉強をする児童は「六一」と、笑顔で答えた。

北地区まちづくり協議会が「地域で子どもを育てよう」という理念のもと、二〇二一年から行っている。今年は四日にわたって開き、延べ約百六十人の児童が参加。最終日は住民と高校生計十三人が、宿題を見て回った。

高校生の参加は、同協議会が「年の近い先生が一緒なら、もっと楽しく勉強できるだろう」と考えて企画。四日で、呼び掛けに応じた二十人が集まった。

保育士を目指しているという三年の中垣麻帆さん（ひは）は「教えるのは難しかったけど、（児童の）表情とか探りながらできた」と話した。北小二年の福井結月さん（ゆづきは）は「一人より、ここでやる方が楽しい。お姉ちゃんたちに教えてもらえてうれしかった」と感想を語った。（松沢侑香）

**北地区まちづくり協議会が行っている「寺子屋北まち」に岡本キャンパス生徒（20名）が、お手伝いに行ってきました。**